

(別紙様式)

令和3年度 学校自己評価システムシート (県立入間向陽高等学校)

(A3判横)

目指す学校像	「ひたむきに、おおらかに、たくましく」未来を生き抜く心身ともに健全な若人の育成
重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業改善及び学習習慣の確立を通じた学習意欲の向上 2 行事等の実践を通じた主権者意識の育成及び自律的・基本的な生活習慣の確立 3 生徒一人一人に即した進路選択とその実現 4 保護者参加と中学校・地域との連携強化による協力支援体制の確立

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者 名 生徒名 名 事務局(教職員) 名
-----	--------------------------------

学校自己評価					学校関係者評価		
年度目標					年度評価(月 日 現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<p>・生徒達の授業態度は大変落ち著いており、大部分の生徒が集中して取り組んでいる。生徒達は、わかりやすい授業と興味を強く授業を望んでおり、教職員には、これらの現状や要望を踏まえ、生徒が意欲的・主体的に参加できる授業作りと工夫が望まれる。また、大学進学をはじめとする生徒の多様な進路希望を念頭に置き、それらの土台となる基礎的な知識や思考力、自ら課題を発見し解決する能力を養成していく必要がある。</p> <p>・定期考査前の学習には、大半の生徒がより取り組んでいるが、予習復習等の日常的な学習習慣が身につけていない生徒も多い。現状を踏まえ、教職員は、引き続き生徒の学習習慣確立のための方策を模索し、実行していく必要がある。</p> <p>・生徒の進路意識は、高まりつつある。特に、科目選択については、将来の進路希望と結び付けながら、学習意欲の向上につなげていくことが大切である。</p>	<p>基礎的・基本的事項を重視し深い学びを促す授業改善の取り組み</p>	<p>・生徒アンケートの結果を踏まえ、より一層興味関心を引き出す授業を創意工夫する。また、生徒達が自ら考え、対話的で深い学びを目指すとともに、課題解決能力が身につく授業を模索していく。</p> <p>・引き続き「初期学習指導」を実施し、各教科の学習方法を具体的に説明する。授業での課題の提示と評価、生徒自身による定期考査の振り返り等を行い、自己課題の発見を促す。学校全体で生徒達の日常的な家庭学習の習慣化を、ICTの活用も取り入れて進めていく。</p> <p>・科目選択に関して生徒達が自らの将来の進路と結び付けられるように科目選択ガイダンスを行う。進路分野別ガイダンス・進路HRなど進路指導部と連携して動機付けを大切に、生徒の学習意欲向上につなげていく。</p>	<p>・生徒アンケートの分析によって生徒達の実情を把握し、授業改善への課題を明確にして、主体的・対話的で深い学びを目指した様々な創意工夫と実践に取り組むことができたか。</p> <p>・「初期学習指導」により、学習への動機付けができたか。また、課題や定期考査等の評価と生徒自身による学習の振り返りにより、日常的な家庭学習の習慣化を進めることができたか。</p> <p>・科目選択にあたり、生徒達が自分の将来の進路を自覚しながら学習意欲を高めていけるような適切な情報提供と指導を行うことができたか。</p>			
2	<p>・挨拶・礼儀など基本的な生活習慣が身につけている生徒が多く、落ち着いた学校生活を送っており、近隣からの評判も良い。</p> <p>・SNSの使用について、研修会等を実施することで問題の拡大を防止できているが、スマホ使用のマナーを含め、引き続き理解を深め、トラブル防止に取り組んでいく必要がある。</p> <p>・生徒アンケートの結果から、生徒の行事への期待は高い状態を維持している。コロナ禍の困難な状況であるが、中央委員会等の委員会が生徒会本部と連携して活動の幅を広げてきた。行事をさらに発展させていくために、諸行事の原案作りにおいて、各生徒が目的や意義を再認識し、生徒会本部とHRとの結びつきを意識した企画づくりを深めていくことを通じて、「参加」から「参画」へと発展させていく工夫を継続していく必要がある。</p> <p>・食堂と生徒間での会議を適宜設け、生徒の要望を反映させる活動を継続できている。生徒アンケート結果の分析をもとに、生活環境の向上に向けた議論を行う中で、主権者意識を引き続き育成していく必要がある。</p> <p>・部活動は全体的に盛んであるが、加入状況の維持が課題となっている。活動の活性化と加入率の向上に向けて、生徒会組織の横のつながりと、環境の整備に取り組んでいく必要がある。</p> <p>・入間向陽高校をよくする会で生徒が意見表明を行い、各HR代表やPTA、学校評議員と意見交換を行うことで自ら行ってきたことを振り返り、課題発見を積み重ねることができている。昨年度は、前例のないコロナ禍で学校生活が大きく制約される中での学校行事の在り方について意見交換を行った。そのことが生徒会活動が単なる行事の実施ではなく、生徒会活動の在り方を探求することに繋がり、生徒会活動の質を高めることにつながった。引き続き、HR討議を踏まえ取組みを全校に広げることが課題である。</p> <p>・修学旅行は、コロナ感染防止対策を徹底し、日程を1日縮減して沖縄修学旅行を実施した。事前学習で教科横断的に沖縄をテーマに戦争と平和、歴史と文化などの学習に取り組み当日の平和学習、文化体験等に活かすことができた。また、人権学習では、学年ごとにテーマを設定し、教科を横断して学習を深めることができた。修学旅行の事前学習や人権教育での各教科を横断した取組は、効果が大きいと、引き続き、学年、委員会、教科で連携・協力を大切にしていく必要がある。</p>	<p>生徒一人一人の個性に即し、人間として望ましい資質の伸長を図る</p>	<p>・教員間の共通理解と協力体制の確立(特に整容指導・挨拶励行、時間厳守について)</p> <p>・朝の登校指導、授業開始時の巡回の継続</p> <p>・定期的な整容指導の実施</p> <p>・社会生活におけるマナー向上指導の一つとして情報モラル研修会・非行防止研修会を企画し、自己の課題として考えさせる。</p> <p>・生徒会部や担任の連携のもと、引き続き中央委員会等の委員会と協力関係を深め、生徒会行事の目的や意義を意識した運営を組織的に推進していくことで、「全校生徒参加型」を常に意識させ、その質の向上に向けて企画・提案を工夫する指導を行う。</p> <p>・アンケートや生徒総会での意見を踏まえて、生徒会として関係部署と協議できる機会の推進を通して主権者意識を高める指導を行う。</p> <p>・諸行事での組織的な連携や環境整備の推進を通して、部活動への意欲や向上心を高める支援を行う。</p> <p>・生徒が自ら考え、課題を発見、課題解決に向けた探求を進めるよう入間向陽高校をよくする会での意見表明を指導していく。そのために、生徒会本部での事前の論点整理と模擬討論を充実させていく。また、生徒要望アンケートに基づきHR討議を進め、取組みを全校へ広げていく。</p> <p>・共通理解を深めるため、意見交換の内容について生徒会ニュース、PTA広報、職員会議等で還元する。</p> <p>・主権者教育の一環として人権教育、修学旅行等の事前学習指導の各教科指導を教科横断的に組み合わせ、様々な人権について深く考えさせ、修学旅行においては、平和教育や歴史・文化・自然・体験教育等を推進し、事前学習と現地での取組を繋げ、自己の在り方生き方を考えた深い学びを実現する。また、人権教育においては、各学年ごとにテーマを設定し、自己の在り方生き方を探究する。</p>	<p>・共通理解と協力体制ができたか。</p> <p>・登校指導、巡回指導が継続的に実施できたか</p> <p>・朝の登校指導、授業開始時の巡回の継続</p> <p>・教員の共通理解のもと、整容指導を適切に行うことができたか。</p> <p>・自己の課題として考えさせる研修会が効果的に実施できたか。</p> <p>・生徒会組織の活動が全校生徒の「参加・参画」を視野に入れて、原案作成・提案・実施を組織的に運営できたか。</p> <p>・アンケート内容の工夫と協議の機会の推進を通して、生活環境向上の可能性を多角的に検討し、協議できたか。</p> <p>・諸行事での部活動との連携や環境の整備等の工夫を通して、加入率の向上、維持ができたか。</p> <p>・入間向陽高校をよくする会での生徒の意見表明がアンケート等生徒の実情に基づき、整理され、HR討議を通じて関心・議論を広げ、問題解決・課題発見に向けた意見交換となったか。</p> <p>・意見交換の情報がそれぞれに還元されたか。</p> <p>・教科横断的な人権学習、修学旅行事前学習によって自己の在り方生き方を考え、修学旅行においては、現地での取組みが効果的に連携できたか。</p>			
3	<p>・生徒の進路希望は多様である。計画的に進路決定することができるように、進路指導の工夫が必要である。</p> <p>・希望する進路を実現するためには受験に耐えうる教養と学力が不可欠である。また受験環境も変化しており、生徒の実状に応じた対策が必要である。</p> <p>・スマートフォンの普及により進路情報は身近になったが、不適切な情報も多い。適切な情報を生徒・保護者・教職員で共有していく必要がある。</p>	<p>生徒一人一人を大切に、その進路実現を支援する。</p>	<p>・適性検査・職業人講話を通して社会性を培い、自己の在り方生き方を考えながら、自己理解と職業意識を育み、進路選択の課題を発見するための動機付けを推進する。また各ガイダンスや上級学校による模擬授業を通して計画的に進路分野を選択させる。</p> <p>・授業を基本とし、向陽ゼミ(補習)や模試、GTECアセスメント版を実施して学力の向上を図る。自習室は記名方法を簡略化し利用のハードルを下げる。推薦受験対策として、小論文や面接練習に積極的に取り組むよう指導する。</p> <p>・「進路だより」や「ホームページ」、「保護者向けの進路ガイド」を通して、進路情報を発信していく。また、進路室の利用を促進する。</p>	<p>・生徒が自分の将来について考え、職業・上級学校についての必要な知識を深め、進路選択の動機付けを促すことができたか。</p> <p>・生徒が自主的・主体的に学習に取り組み、受験に必要な学力を身につけるように指導することに寄与することができたか。</p> <p>・適切な進路情報を生徒・保護者・教職員と共有することができたか。</p>			
4	<p>・体育祭やマラソン大会の給水支援、正門前の花植えなどの活動が引き続き求められている。また生徒会活動・部活動等を支援する活動を通して本校の教育活動が大きく支えられている。これらの活動を役員以外の方へ広げていくことが課題である。</p>	<p>保護者参加に基づく地域に開かれた学校づくりの推進</p>	<p>・本部役員・各委員会委員長と担当教員との連絡・協議を密にする。これにより、生徒理解を深めた、学校の実情に基づく取組ができるよう本部・各委員会の計画立案とその実行に関わっていく。</p>	<p>・本部・各委員会の計画立案に基づき、各担当が組織的に関わることができたか。</p>			

学校関係者からの意見・要望・評価等